

五 展開例

- 一 対象 小学校 低学年
- 二 主題名 友達っていいな
- 三 ねらい
友達と仲良くし、助け合おうとする心情を育てる。
(2—③)
- 四 発達の段階と資料の特質
 - 小学校低学年の児童は、友達と仲良くしたいという気持ちを表現することはできる。しかし、まだ自己中心的な部分もち合わせており、友達とトラブルになることも少なくない。そこで、本資料で、主人公が友達のやさしさに触れ、「友達っていいな」という気持ちを深めていくことに共感させることでねらいにせまりたい。
 - また、児童の中には資料の高病原性鳥インフルエンザに対する認識が薄い児童もいると考えられる。そのため本病について大まかにふれた上で、主人公の気持ちに、より共感できるようにしたい。

- 本資料の内容の展開は以下のとおりである。①主人公の住んでいる地域で高病原性鳥インフルエンザが発生する。②飼っている大好きな鶏のそばに近づけない状況が続く中、主人公は「鶏が病気にかかるかもしれない」と思い悩み、そのため学習や係活動に身が入らないでいる。③そんなとき、友達が主人公のことを心配し、遊びに誘ったり、係活動を手伝ったりする。④そんな友達のやさしさにふれ、主人公は少しずつ元気をとりもどしていく。
- 主人公の心情の変化を通して、友達のよさを感じるができる資料となっている。

六 指導上の留意点

- 展開例2では、主人公の気持ちの移り変わりに共感させ、「友達がいってよかった」などの気持ちについて考えられるようにする。
- 動植物愛護や感謝等の関連価値と混同しないように配慮する。
- 展開例2の中心発問の場面では、役割演技、動作化や書く活動等を取り入れて児童の思考を深めるようにしたい。

七 参考資料等

- 「高病原性鳥インフルエンザ 防疫記録集」(宮崎県)